



右の円弧状の小滝では、遡上する魚を捕獲するアオサギ・カワウの猟場でした。中央の橋はニールセンローゼ橋、名古屋都市景観賞を受賞しています。

【撮影 30期 北川健一・文 31期 宮田 岩男】

スタート時は明るい曇り空。天気予報は午後から小さな傘マークなので午前中は問題なしのウォーキング日和と宝角リーダーが判断しました。

集合場所は新瑞橋バスターミナルで男性 12 名、女性 13 名、計 25 名の参加になりました。4・5月の定例会同様に集合時間は 9 時 30 分でしたが、今回もコロナウイルスのリスク回避を考慮して 1 班は 10 分程早めてスタートしました。

山崎川に架かる落合橋を渡り、南区との境界を南に辿り天白川に直行しました。この道は散策用に道路の両側に植栽柵が互い違いに設置され、狭い車道が蛇行し一般車両がスピードを抑えるように造られているので安心してウォーキングができます。平子第二公園を右に見て中井用水の緑道を経由して、堤防スロープ道を上り山崎川右岸堤防道路に到着、天白川に架かる歩道橋の野中橋で後続の 2 班を待ちます。全員集合してからリーダーの提案でソーシャルディスタンスを考え、右岸と左岸に分かれ上流に向かいました。

高い堤防道路からは街並みを俯瞰し、左手には楠の巨木のこんもりとした音聞山、右手には緑の緩やかな起伏の相生山、遠くに猿投山のシルエットの展望に堪能しました。幸い天気も曇り空で、暑くも無く心地良い爽やかな風に吹かれながら足取り軽く気分の良いウォーキングができました。

10 時半を過ぎた頃から天気予報が外れて、生憎の雨模様になりました。皆さん雨対策のために島田橋の橋桁の下で傘の用意や、レインウエア・ポンチョを羽織り空元気を出して、なごや生物多様性センターへと向かいました。

天白川と植田川の合流地点の段差工では思いがけなく、落差 50cm 程の円弧状の 3 段の小さな滝に小魚の遡上を狙うアオサギとカワウがいて捕獲する姿を観ることができました。

ところでこの付近の眺めは都会と自然環境が調和してオシャレな雰囲気があります。河川施設の段差工とニールセンローゼ橋の寄鷺橋の天白緑地公園は天気さえ良ければ、木陰のベンチでのランチタイムなどイチ押しの素敵な場所です。

なごや生物多様性センターは植田川の堤防と公園の森に囲まれた静かな雰囲気の中にひっそりとありました。事前に服部さんから見学依頼がされていて、職員の方から親切丁寧な説明を聞き、貴重な体験ができました。

「この施設は 2010 年 10 月に愛知・名古屋で開催された COP10 の理念と成果を継承して、その意義を推進する拠点としてできました。またここは廃止になった不燃ごみの中継施設を有効活用して整備しました」とのお話がありました。

作業室では突然、解剖前の大きなアライグマが横たわっていてみんな驚きました。

また、スナメリの骨格標本を制作中で、白いボールを想わせる頭蓋骨や、背骨や腕に相当するヒシなどの細部の骨格なども見ることができました。

このスナメリは藤前干潟で死んでいたのを発見され、通報により回収したそうです。

また、鶴舞公園で回収した元気な外来種亀のベニシユラタータや、カミツキガメなどを見ました。アライグマの捕獲機は鼠取りの籠に類似しており、必要があればセンターが貸し出ししていることも知りました。

センター見学後、11 時半に自由解散となり地下鉄塩釜口駅に帰る方と、健脚コースの塩竈神社に行かれる方とに分かれました。

小生は塩竈神社、八事神社、音聞山仏地院を巡って最後の登り坂を上がり、地下鉄八事駅に 12 時半過ぎにゴールしました。

ランチは AEON の穂波大食堂で冷やし大盛天麩羅讃岐うどんを美味しくいただき、うどんとウォーキングは足腰が大事と実感しました。

今回のウォーキングは御幸(みゆき)山をパスしたが、ほぼ予定通りのコースを消化して、本願寺の我が家までの総歩数は 16,000 歩、歩行距離は 11km で、歩行時間は 3 時間でした。





北川カメラマンの話では「コンデジで 1350 mm相当の望遠レンズをいっぱい引き寄せて撮影」されたそうです。河川施設・円弧状段差工のアオサギ（青鷺）の真正面のカメラアングルが面白いのでA4いっぱい掲載しました。気にしていただけましたか？
片足立で、精悍な眼光で水面を凝視しており、じっと待つ姿は時代劇の剣豪を彷彿させます。